

No	テーマ	学習到達目標	内 容	課題
第1講	21世紀に求められる学力と学習環境	(1) 21世紀に求められる学力について説明できる。 (2) 資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。	(1) 知識基盤社会で求められる力 (2) 21世紀型学力を育成する授業への変革 (3) 授業・教育課程のすがた (4) 評価のすがた (5) 「前向き授業」をつくる音楽科の取り組み	(1) 知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。 (2) 知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。 (3) 変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。
第2講	インストラクショナルデザイン	(1) インストラクショナルデザインとは何か説明できる。 (2) ADDIEモデルについて事例をあげて説明できる。	(1) インストラクショナルデザインとは (2) 教材開発とインストラクショナルデザイン (3) ADDIE～インストラクショナルデザインの5つのプロセス（手順）～ (4) ADDIE フレームワークの活用 ～音楽科の授業改善と資質・能力の伸長のために～	(1) ADDIEのプロセスを検討し、音楽の教材を作成しなさい。
第3講	教育デザインの理論的研究	(1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による具体例を挙げて説明できる。 (2) ガニエの学習成果の5分類について、行動目標による具体例を挙げて説明できる。 (3) 音楽科の題材における学習目標について、具体的に説明できる。	(1) 学習目標の明確化と授業デザイン (2) 学習目標の明確化と学習目標の分類 ・ブルーム タクソノミー ・ガニエ 学習成果 ・学習を支援する働きかけ～インストラクショナルデザインのアウトプットモデル～ (3) 深い学びを目指す学習目標の構造化～目標分析と目標分類～	(1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。 (2) ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明しなさい。 (3) 具体的な題材において、目標分類表を設定しなさい。
第4講	教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～	(1) 教育方法の歴史をつかみ、現行学習指導要領の転換が図られていることを理解し、説明することができる。 (2) 現在の学習指導要領において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、音楽科の具体例を示しながら説明できる。	(1) 教育方法の歴史としての行動主義的学習観について (2) 教育方法の歴史としての認知主義的学習理論について (3) 教育方法の歴史としての構成主義的学習理論について (4) 教育方法の歴史としての社会構成主義的学習理論について (5) 教えと学びのパラダイムの交錯	(1) 教育方法の歴史としての、学習観の変遷を、学習者の具体的な姿を示し、述べなさい。 (2) 現在の学習観において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。
第5講	子供の学習意欲を高める教育	(1) 学習意欲を高める指導法について説明できる。 (2) J.M.ケラーの ARCS（アークス）モデルについて、音楽科の学習活動の例を挙げて、具体的に説明できる。	(1) 動機づけを高める要因 (2) 主体的に学ぶ学習意欲を高めるための方略～IDの視点で授業デザインする、動機づけ設計法 ARCS（アークス）モデルとは～	(1) 音楽科の学習の動機づけの具体的な方法をあげて、J.M.ケラーの ARCS（アークス）モデルのどの分類にあたるか、説明しなさい。

		(3) アンドラゴジー (Andragogy) をもとにして、学校式教育から大人の学び支援についてその違いを具体的に説明し、授業設計に生かすことができる。	(3) ID の視点で学習意欲を高めるフレームワーク 1 ～ARCS (アークス) モデルを音楽科授業の実際に生かす～アンドラゴジーとペダゴジー (4) ID の視点で学習意欲を高めるフレームワーク 2 ～成人学習学の原則「アンドラゴジー (Andragogy)」の考え方を生かす (5) 学ぶ意欲を保ち続けるために	(2) アンドラゴジーの特徴を、ペタゴジーとの比較をもとにして、学校式教育から大人の学び支援について、その違いを具体的にカードで 5 つ挙げ、みんなの広場でグループごとに分類し、説明しなさい。【タブレット課題】
第 6 講	教育デザインの実践的研究	(1) 学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく授業設計が構想できる。 (2) 「主題による題材構成」「楽曲による題材構成」について説明できる。	(1) インストラクショナルデザイン理論とモデルの活用 (2) 授業設計の技術 (3) 音楽に関する汎用的な力を育てる題材構成 ・目標の明確化による題材の構成 ・題材構成の基本的な考え方 (4) 教科の本質を追究する題材設計のために ・目標分析 ・題材観	(1) 学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく題材として、第 1・2 学年の学習で身に付けたことを関連付けて活用する第 3・4 学年の主題による題材構成を構想し、説明しなさい。その際、「教授フローチャート」を用いて、題材構成 (授業デザイン) を示しなさい。
第 7 講	学校段階間の接続	(1) 保幼小の連携、小中の学習指導要領の構成について、説明できる。 (2) 発達段階を踏まえた指導の充実 (低・中・高学年) について、具体的な手だてを説明できる。	(1) 保幼、中学校の音楽科学習の接続 (2) 発達段階を踏まえた指導の充実 ・発達段階を踏まえた音楽の感受を深める・表出する方法とその手だて	(1) 音楽科の学習指導において、児童の発達段階を踏まえた指導の具体例を、教材 (楽曲) 例を用いて説明しなさい。 (2) 育みたい資質・能力を焦点化した音楽科学習指導の、小中比較表を作成しなさい。
第 8 講	「教えないで学べる」という新たな学び	(1) 「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。 (2) 「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。	(1) J・B キャロル (Carroll) の学校学習の時間モデル (2) 学習に必要な時間と指導の質 (3) 「教えないで学べる」学習環境 ・EdTech	(1) キャロル (J.B.Carroll) の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。 (2) 「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。 (3) 「教えないで学べる」研修を実現するための手だてを考えなさい。
第 9 講	新たな学びとしての反転授業	(1) 反転授業について、具体例な説明ができる。 (2) 音楽教育における反転授業の授業設計ができる。	(1) 反転授業 ・反転授業とは ・反転授業と従来の授業との違い ・反転授業の学習効果 ・反転授業の課題 (2) デジタル教材の開発と教育リソースとの連携 (3) 音楽科における反転授業の実際	(1) 音楽教育における反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。 (2) 音楽教育における反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。

第10講	協働的な学びのICTデザイン	(1) 協働的な学びにおけるICT活用のメリットを説明できる。 (2) 協働学習の考え方を理解し、実際に授業デザインできる。	(1) 協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果 (2) 協働学習に影響を与える要因 (3) 協働学習のデザインの手法と協働学習を支援する教材開発	(1) 協働的な学びにおけるICT活用について、学習活動と方法を、具体例を挙げて説明しなさい。
第11講	主体的・対話的な深い学びの実現	(1) 「主体的・対話的で深い学び」について、具体例を挙げて説明できる。 (2) ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業をデザインできる。	(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・アクティブ・ラーニングと「主体的・対話的で深い学び」 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 (2) 小学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」 ・「主体的な学び」 ・「対話的な学び」 ・「深い学び」 (3) 「主体的・対話的で深い学び」と学習環境としてのICT ・知識基盤社会と資質・能力 ・指導の個別化と学習の個性化 ・「個別最適な学び」をどう捉えるか ・「主体的・対話的な深い学び」の授業デザインと評価	(1) 「主体的・対話的な深い学び」を実現するための視点を説明しなさい。
第12講	カリキュラム・マネジメントと学校における音楽科の役割	(1) 音楽科におけるカリキュラム・マネジメントの充実について、説明できる。 (2) 「社会に開かれた教育課程」の実現のために、カリキュラム・マネジメントの充実を目指して、学校教育目標をふまえた音楽科における地域社会とのかかわりを構築することができる。	(1) カリキュラム・マネジメントとは何か (2) 資質・能力を育む音楽科カリキュラム・マネジメントの視点	(1) (あなたの所属校、もしくは出身校の) 子供や地域の実態を生かした「カリキュラム・マネジメント」実現のための特色ある音楽の指導計画を立てなさい。
第13講	カリキュラム・マネジメントと音楽科経営の自己評価	(1) カリキュラム・マネジメントの3つの側面から、音楽科経営の重点を説明できる。 (2) 音楽科経営の自己評価の観点と振り返りについての考え方を説明できる。	(1) カリキュラム・マネジメントの3つの側面と実践のポイント ・教科を横断し、広い視点をもつ ・PDCAサイクルを確立する ・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も含め活用し効果的に組み合わせる (2) PDCAサイクルと音楽科経営の自己評価	(1) PDCAサイクルにおける音楽科教育経営の自己評価を行いなさい。

			・音楽科経営の指導の重点と自己評価の考え方 ・音楽科教科経営の自己評価の実際	
第14講	コンピテンシーを育成するデジタルアーカイブの構築と活用	(1) 音楽科におけるデジタルアーカイブの利点を説明できる。 (2) 音楽科デジタルアーカイブを構想できる。 ・教育 DX の現状と音楽科の教材活用	(1) コンピテンシーを育む音楽科デジタルアーカイブの構築 (2) デジタルコンテンツのための収集～教材選択の視点（内容の取扱い）から (3) デジタルアーカイブがつくる新たな学び (4) カリキュラム・マネジメントにいかす音楽科におけるデジタルアーカイブのナレッジマネジメント（知的創造）	(1) 音楽科デジタルアーカイブのフレームワークを構成しなさい。
第15講	音楽はなぜ学校に必要か～未来を生きる世代に必要なこと	(1) 音楽を学校教育で学ぶ意味を、子供にわかる言葉で説明できる。 (2) 音楽の多様性と普遍性について、音楽の例を挙げて説明できる。 (3) 子ども一人一人が自分の個性に気づき、創造の担い手となる経験ができる音楽科学習を構想できる。	(1) 音楽の起源 (2) 学校教育における音楽科の果たす役割 (3) 変わりゆく社会のニーズへの対応 ・STEAM 教育 ・経済産業省「未来の教室」 ・マサチューセッツ工科大学 MIT 音楽の授業 ・リベラル・アーツ (4) 音楽科教育が目指すもの	(1) 音楽を学校教育で学ぶ意味を、子供にわかる言葉で説明しなさい。 (2) 創造力を育む音楽科学習指導のために取り組むべきことを説明しなさい。